

おいの書館 No.34

和名ヶ谷分館

訪ねて

松戸の十九番目の分館として開館(五月)したばかりの和名ヶ谷分館を七月三日に見学しました。駅から遠いので足の便は悪いが、畑に囲まれた静かな所になりました。

分館としては広い方ですが、小型分館ということと公社の職員が二人配置されています。開館間もないということと、職員が一入派遣されていること、書架、机、椅子は勿論のこと、蔵書もすべて新しく、とても気持ち

がいいものです。市民からも評判がよく、貸出しが多く書架は所々空いてガラガラの状態でした。児童書の書架と床の色はピンクと一般とは区分けされ、楽しい雰囲気を感じていきます。職員の方の思いが伝わってきます。児童書コーナーの入口付近の書架には何入かの絵本作家の本がまとめられてありまし

た。他の館にはない試みです。選んだ基準は子どもに人気のある作家、最近売れ出し中の作家とのこととです。職員がいればこそできる試みなのかと思いましたが、ちょっととした事ですが、職員がいることの良さを感じました。

ここはゴミ焼却場や体育館、プールなどといっしょの複合施設であり、



特に土日の利用者は大変多く、市内全域から来ているとのこと。私達が行った時は平日の午前中だったので、あまり人もなく静かでした。土日は忙しくカウター業務だけの手がいはいになるそうなので、さぞかし賑わしいのではないかと思われ

れます。和名ヶ谷分館のもう一つの特徴は雑誌のタイトル数が多く、八十種あるとの事です。

和名ヶ谷分館については、計画の段階から職員の方々も力を入れていたように見受けられたので、とても期待して行ったのですが、あまり広さをとっていないということ、職員の配置がないということと、利用者としてはちょっとびり不満が残る思いがしました。

山森の館 流の図書館

今年の四月にオープンした流山市の森の図書館は、とても素敵な図書館です。東深井地区公

園の一角にあり、しょうしやな平屋建て、広さは松戸の図書館本館と同じ位です。高い天井から自然光が入り広々とした感じがあります。開架式の本棚も、柱にも木が使われています。新聞雑誌、郷土資料などのコーナーが適当に配置されていて、座ると広い窓ガラス越しに公園の樹々が見えます。

児童コーナーには、高さを変え

て丸い机と椅子があります。お話し室もあり、これから読み聞かせのボランティア養成講座等を計画し、職員をサポートしていくそうです。CDやビデオも視聴でき、ハイビジョンも楽しめます。くつろいで読書ができるよう

おとしよりや障害のある方が利用しやすいように平屋建にし、床段差をなくしたり、書架間スペースを二〇cmとりました。テラスには白いテーブルと椅子があり、緑陰の読書を楽しめます。とにかく落ち着いたセンスの良い図書館です。

ここは図書館のほかに、大小会議室、和室、展示ギャラリーがあります。特に視聴覚室兼大会

議室は大型吹吸システムがあり、市民でも簡単に楽しめることができます。

建設計画の段階で、地元説明会が開かれ、地域住民の要望をとり入れていってくださいます。又、トイレで使用されている

水は、地下に蓄えられた百トンの雨水です。散水にも使われています。深夜電力を利用して床暖房もしているそうです。これからの公共施設はこうでなければと感心しつつ帰ってきました。(渡辺)



ネ・山田

発行「おーい図書館」
連絡先 青木 和子

松戸市総台ハニエ。之。

0473
(67)
5384